

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第17回

中山道

街道が交差しワインが薫るまち 信州しおじり

はじめに

塩尻市は、松本盆地の南端、長野県のほぼ中央部に位置し、市内



奈良井中町より中山道随一の難所鳥居峠を見上げる

には信濃川水系の奈良井川と田川、天竜川水系の小野川が流下し、塩尻峠と善知鳥峠、牛首峠、権兵衛峠、鳥居峠、姥神峠は、太平洋と日本海への分水嶺ぶんすいりょうとなっている。古くは、中山道、善光寺街道、三州街道の宿場町として栄え、現在もJR中央東線・中央西線・篠ノ井線の結接点として、また、長野自動車道の2つのインターチェンジと、松本空港を擁する交通の要衝としてその機能を果たしている。

伝統産業の継承

全国有数の産地として知られるぶどうの栽培は、明治23年から始まり、特産のぶどうが生み出すワインは、国内はもとより、世界的なワインコンクールでも

塩尻市長(長野県)

小口利幸



入賞を重ね、国内外において高い評価を受けている。市内には、ワインナリーが集積しており、ワイン特区の取得、ワイン大学の設立、ワイン産業振興本部の設置など、ワイン産業の支援に力を入れている。また、伝統産業の木曾漆器は、長野冬季オリンピックの入賞メダルにも採用されるなど、その確かな技術力が継承され、高く評価されている。その中心となる平沢地区は、平成18年「漆工町木曾平沢」として、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。昭和53年に選定された「宿場町奈良井」と合わせ、中山道の街道沿いに続く2つのエリアにおいて、重伝建の選定を受けていることは全国でも稀まれである。



旧中村家住宅の外観

中山道67宿中、5宿を有する宿場のふるさと

塩尻はかつて、江戸と京都を結ぶ中山道、松本を経て善光寺に至る善光寺街道、岡崎に伸びる三州街道の3つが交わった。中でも五街道のひとつ中山道は、参勤交代



皇女和宮御下行行列

の大名をはじめ、多くの人を利用して、にぎわい、文化が花開いた。塩尻は、中山道67宿(板橋から大津まで)のうち「塩尻宿」「洗馬宿」「本山宿」「贄川宿」「奈良井宿」の5つもの宿場を有し、特に中山道随一の難所鳥居峠を控える奈良井宿は、「奈良井千軒」と云われ、木曾十一宿中最もにぎわった。現在も、年間50万人の人々が来訪し、江戸時代にタイムスリップしたかのような町並みを散策している。奈良井宿を代表する特徴としては、鳥居峠上り口にある鎮神社を京都側の端に、奈良井川沿いを緩やかに下り、約1kmにわたって町並



みを形成する宿場であることが挙げられる。その街道沿いには、現在も住民が居住し、住みながらにして保存整備が進んでいる。街道沿いに連担する町家は、出梁造と呼ばれる、その特徴的な建物意匠としては、葺戸、千本格子、鎧庇、猿頭などが挙げられる。資料館として一般公開している「旧中村家住宅」では、その典型的な様子を色濃く見ることができる。

中山道のご真ん中

江戸側の板橋から京都側の守山までの中山道67宿の江戸から数えて34番目、京都から数えて34番目の宿場が奈良井宿である。東海道のど真ん中の宿場(静岡県袋井宿)とは、ど真ん中交流を発端に姉妹都市提携を結んでいる。
※京側で東海道と交わる「軍津宿」「大津宿」は東海道の宿駅として数えられる。

街道観光を推進

中山道は将軍家に嫁ぐ姫宮たち

一口メモ

の大通りに使われたため、別名「姫街道」とも呼ばれた。中でも幕末の公武合体策のため、徳川14代将軍家茂に嫁いだ和宮の大行列は、絵巻物のような豪華さであったと伝えられている。当時の御下り行列を再現する「皇女和宮御下行行列」は本年3回目を数え、晩秋に開催が予定されている。また、今年(2016年)は、

1716年(享保元年)に中仙道から中山道に改名され、300年が経過することから、中山道名称統一300年を沿線自治体にも呼び掛け、街道観光に力を入れていく。
今後、中山道を核とした街道文化を広域連携の中で大いに発信し、歴史・文化を継承していきたい。

中山道

2016年は中山道名称統一300年



1716年(享保元年)に幕府の通達(五街道宿御取扱秘書)により中仙道は中山道に改名された。本年2016年はそれから300年を迎えることから中山道(NAKASENDO)名称統一300年としてオリジナルロゴを作成し、沿線自治体と連携し、歴史や文化を継承していく事業を計画している。

中山道のロゴマークのデザインコンセプトは「中山道は歴史の山々を越える」。日本の中央山塊を貫く山々を表現した図形を背景に、「中山道」の文字を配置し、歴史的な役割と同時に未来を目指すべくトルを表現している。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」